



政策フォーラム 高橋 剛 20
荒川橋りょう新設ルート

問荒川調節池工事事務所で橋りょう新設ルートの比較設計が行われている。決定過程の透明性を確保し、地元への十分な説明が必要だが、市の認識は。

答建設部長 荒川調節池工事事務所が進めるJR川越線橋りょうの架け替えは、令和元年東日本台風における荒川の水位上昇の実情を踏まえ、早期の事業完成が荒川堤防の

安全性につながるため、重要と認識している。このことから、橋りょうの架け替えに伴う鉄道の新設ルートの計画についても、関係する地域の人々に理解してもらうことが必要不可欠なため、荒川上流河川事務所や荒川調節池工事事務所と連携し、地元への十分な説明が図られるよう努める。

問荒川右岸側の整備事業



公明党 小ノ澤 哲也 21
一二重読影の体制をつくれ!

問市のがん検診の課題である肺がん検診の受診率の低さを改善するには個別検診化が必要となる。二重読影の体制が必要。医師会と協議すべきでは?

答市長 二重読影体制づくりには、画像システムの整備、読影を行う医師の確保等のさまざまな課題があるので、川越市医師会の協力が不可欠と考

肺がんの個別検診化に向けては、今後も引き続き、川越市医師会との協議を進めていく。



問予防接種事業
問検診事業



無所属 伊藤 正子 22
学校の諸課題を考える2

問コロナ禍で行動が制限され、行事が中止となり、不安な児童生徒への心のケアを来年度はどのような実施していくのか伺う。

答学校教育部長 令和3年度当初に全校の教育相談主任を対象にした研修を実施する。内容としては、いじめ不登校問題対策検討委員会で作成した資料を使った研修を実施する。その後、各校で、

研修の実施を指示したり、資料中の児童生徒の様子を見取るチェックポイントを活用し、全教職員がその視点で見守れるようにしたりする。学校での実践については、学校訪問時に確認し、全校同じように、一人一人の児童生徒の不安や思いに寄り添えるようにしていく。

問子どもと学校の諸課題
問持続可能なまちづくり



自由民主党 吉敷 賢一郎 23
次期計画への教育長の思い

問第二次川越市教育振興基本計画を基に取り組んできた教育行政を踏まえ、就任から6年目を迎える教育長の第三次計画への思いを伺う。

答教育長 未来を担う一人一人の子どもが、変化の激しい社会を生き抜き、主体的に社会に関わり、自立できる力を身に付けることができるよう、確かな学力の育成を重要課



問生きる力を育む教育



日本共産党 今野 英子 24
家計急変世帯に遡り支給を

問コロナ禍で収入等に大きな影響があった家計急変世帯に対し、費目を追加した就学援助費をさかのぼって支給すべきと考えるが、教育長の見解は。

答教育長 費目の拡充やさかのぼり支給については、保護者の教育費の経済的負担を軽減するためにも有効な取り組みであると認識しているが、他

担など整理すべき課題があり、慎重に対応していく必要があると考える。引き続き、就学援助制度が、真に制度を必要としている人に行き届く制度であり、経済状況により教育格差が生じないよう、課題について必要な調査研究を進めていきたいと考える。

問就学援助の更なる拡充



日本共産党 長田 雅基 25
子どもが安心して過せる居場所を保障し、困窮している子どもを行政が責任を持って支援すべき。子どもの貧困対策の推進について市の考えは。

問子どもが安心して過せる居場所を保障し、困窮している子どもを行政が責任を持って支援すべき。子どもの貧困対策の推進について市の考えは。

答市長 子どもの貧困対策に資する事業については、令和2年度を始期とする第2期子ども・子育て支援事業計画に位置付け、推進を図っているところである。



問子どもが安心して過せる居場所を保障し、困窮している子どもを行政が責任を持って支援すべき。子どもの貧困対策の推進について市の考えは。